

# 七五三の祝着の調達方法からみる家族のかかわり

## — 母親の描くソーシャルネットワーク図からの一考察 —

宮津寿美香, 野中 亮子

長崎大学教育学部 中学校教育コース家庭専攻 保育学研究室

### Relation to family at provide for clothes at Shichi-go-san — A study of Social Network drawn by mother —

Sumika MIYATSU, Ryouko NONAKA

#### 1. 背景

子ども服は両親や祖父母が、子や孫への愛情表現として格好の手段となり、七五三の祝着はその代表的なものの一つであろう。七五三の祝着についての研究を概観すると、七五三という通過儀礼が、どのように人々の中で捉えられてきたか等の、宗教観や文化観から考察をする研究だけでなく、祝着の変化、調達方法についての研究にプラスして、その時々や地域における家族関係について考察する研究が多くある。例えば、松山・布施谷ら（1995）は、祝着の選択・調達行動に注目し、東京都と長野県にて、アンケート調査、店頭調査、神社での現場調査の3種類の調査を行い、七五三の祝着からみた子どもの衣生活における大人と子どもの選択・調達行動と着用行動について検討を行っている。祝着として用いられる服種は和服が多く、女兒の約90%、男児の約60%を占めていることが分かった。祝着の調達行動については、和服は祖父母による購入やレンタルが多く、洋服は両親による購入やおさがりが多いことが明らかとなっており、さらに出生順位に注目すると、長男・長女はレンタルまたは祖父母による購入が多く、次男・次女ではおさがりが多いことが分かった。また、内田（2013）は、1990年から2011年にかけて、3年ごとに9回、東京都の神宮に参拝する各家族の服装を、和服、洋装（フォーマル、カジュアル等）に分けて記録した研究の中で、参拝に同伴する家族数の変化について言及している。参拝者家族の中で5人家族以下の割合が、1990年：95.8%、2002年：77.0%、2011年69.7%となり、6人家族以上の割合が増え、大所帯化が続いている。しかし、その増員として、両家の祖父母の他、おじ、おば、と思われる人も存在し、さらに2011年には単一家族ではなく、別の家族同士で参拝しているのも見受けられていることを明らかにした。

筆者らは、20XX年11月12日、13日、15日、19日の4日間、長崎市内のA神社に七五三の参拝に来ている子どもの母20人にアンケート調査をおこなった。アンケートの内容は、松山・布施谷ら（1995）を参考とし、①着用した祝着の種類、②祝着の調達方法、③に祝着の選択の際に特に誰の意見を重視したかについてである（ここでは、研究Iと称する）。①に関しては、和服の着用が全体の90%を占め、②は、レンタルが全体の40%を占めていた。また、③については、祖母の意見を最も重視するが30%で最も高く、次いで母親が29%

であった。このことから、祝着の選択の際に、家族の誰よりも、祖母の意見が重要視されることがうかがわれたが、対象者と会話をする中で、実際に祖母と同居しているという家族はほとんどおらず、物理的な距離感は祝着の選択に影響しないことが分かった。したがって、子と祖母のかかわりの深さ、つまり心理的距離感が近いことが予測されるが、七五三という特別な日に限ったことではなく、日常的にも心理的距離感が近いのかという疑問が浮かんだ。祖母に限らず、現在の子どもと周囲の大人のかかわりの深さ（心理的距離）がどの程度あるのか、一つの試みとして七五三の祝着の調達方法から明らかにできないかと考えた。

問題を遂行するため、本研究では研究Iを経て改定したアンケートを使用すると共に、ソーシャルネットワーク図という方法を用いておこなった。

## 2. 方法

### 2-1. 対象者

長崎市内の幼児向けの体育教室に通う子どもの母親20名（過去3年以内に七五三経験者）であり、全ての対象者に同意書を取り、研究に協力していただくことの承諾を得た。

### 2-2. 期間

20XX+1年6月某日 15:30~18:00

### 2-3. 調査方法

アンケートへの回答とソーシャルネットワーク図の作図

#### 〈アンケートについて〉

研究Iで使用したものをベースに、大きく5項目からなる。各項目は以下の通りである。

- ① 着用した祝着の種類
- ② 祝着の選択において、特に誰の意見を重要視したか
- ③ 子どもが好む祝着の種類
- ④ 祝着の調達方法
- ⑤ 七五三を終えての祝着の活用方法（祝着購入者のみ）

#### 〈ソーシャルネットワーク図とは〉

ソーシャルネットワーク図とは、Lewisら（1979）が提唱したソーシャルネットワーク理論を元に、「子どもに影響を与える家族を含む、多くの人々によって作られている社会的環境を図式化したもの」である。

それをもとに対象児と関わりを持っている人を視覚的に捉え、対象児と周囲の人々との心理的距離感をより明確に把握することを目的として実施した。これまでソーシャルネットワーク図を使った研究として、阿部ら（2011）の子どもの呼び名の研究がある。

ソーシャルネットワーク図の方法は以下の通りである。

母親には、白紙のB5用紙を渡し、用紙の真ん中に、子どもの名前（本研究ではイニシャルを使用）を書いてもらい、円で囲う。子どもを中心として、「子どもと心理的に関わり

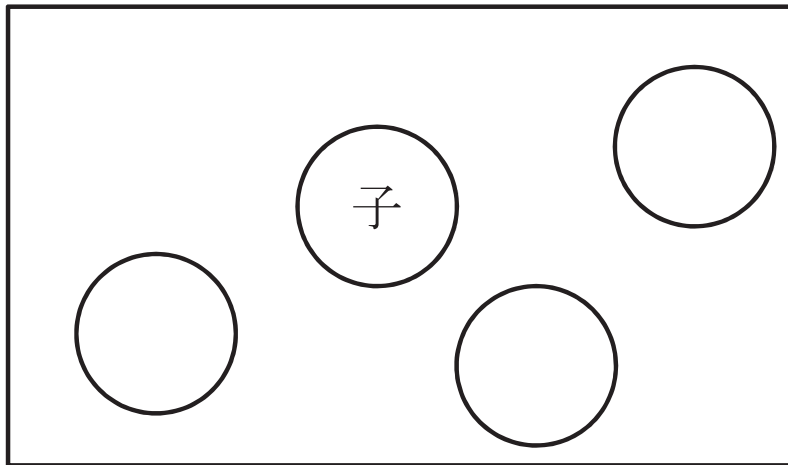


図1 ソーシャルネットワーク図の例

が深いと考える人」を、円と距離で図示してもらった（図1参照）。

子どもに近い人ほど、母親から見て、子どもと心理的距離が近いことになる。

この調査における「子どもと特に心理的に関わりが深い人」については、親戚や近所の人、友人等も含め、家族だけに限定せずにおこなった。

### 3. 結果と考察

調査は、20名の母親を対象としておこなったが、本研究ではその中でも特に興味深かった3名のソーシャルネットワーク図について、アンケートの結果を交えながら考察する。

#### ①対象児S（6歳7か月・男児）のソーシャルネットワーク図

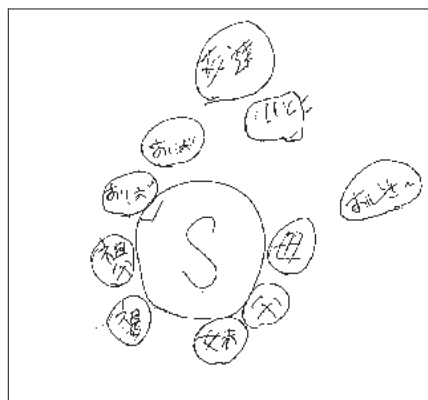


図2 対象児Sのソーシャルネットワーク図

対象児Sの周りを家族、親戚が囲んでおり、親戚よりも外側に「友達」がいる。「おじ」「おば」においては、「おじ」よりも「おば」の方が対象児と距離が近いことが特徴である。アンケートによると、対象児Sは両親と一人の妹と暮らしており、祖父母や他の親

戚とは同居していない。しかしソーシャルネットワーク図では、対象児 S の周りには同居している家族と同等に密接して「祖父」「祖母」「おば」が描かれている。中でも「祖母」は、祝着を選択する上で意見を重視されていることがアンケートからわかっている。つまり、対象児 S と「祖母」との関係は、同居しておらず物理的距離は離れているものの、心理的距離を表すソーシャルネットワーク図の中で密接して描かれていたり、祝着の選択の際に意見を重視している点から、七五三という晴れの日に限らず普段から心理的距離が近い可能性がある。

②対象児 C (3歳10か月・女兒) のソーシャルネットワーク図

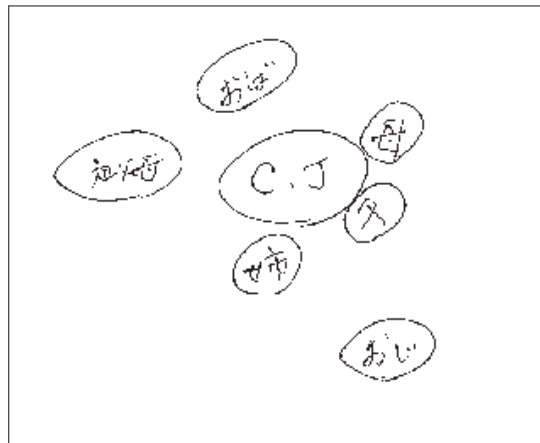


図3 対象児 C のソーシャルネットワーク図

対象児 C の周りを家族、親戚のみが囲んでいる。その中でも、「母」「父」が対象児に最も密接するような形で描かれている。

対象児 C は両親と一人の姉と暮らしており、図の中で挙げられている「祖父母」「おば」「おじ」とは同居していない。また、対象児 C の七五三の祝着を選択する際には、「母」の意見と同程度に「祖母」の意見を重視し購入していることから、対象児 C と「祖母」との心理的距離が近いのではないかと考えられる。しかしソーシャルネットワーク図を見ると、同居している家族は対象児 C に密接して描かれているものの、同居していない家族は対象児 C から距離をおいて表されている。したがって、七五三という晴れの日に限って、対象児 C と「祖母」のかかわりは深くなるが、日常的には他の非同居家族である「祖父」「おば」「おじ」と同等に「祖母」も対象児 C との心理的距離が遠いことが推測される。

③対象児I（6歳7か月・男児）のソーシャルネットワーク図

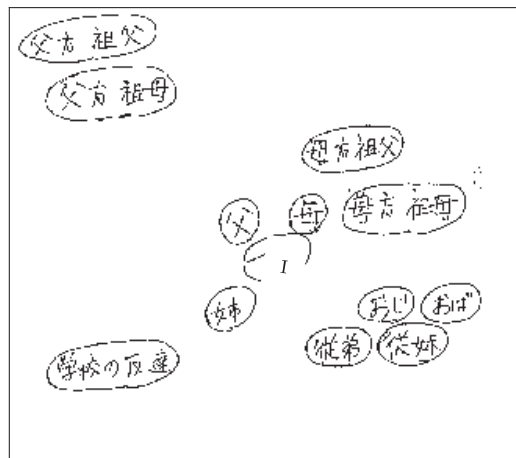


図4 対象児Iのソーシャルネットワーク図

対象児I（6歳7か月・男児）の周りには、「母」が最も近くに位置付けられており、次いで「父」「姉」となっている。

対象児Iは両親と一人の姉と同居しており、ソーシャルネットワーク図においても同居家族は対象児Iに最も近く描かれている。このことから対象児Iは同居家族である「父」「母」「姉」との心理的距離が近いことが分かる。また、アンケートをみても、祝着の選択についても両親の意見を重視し決定している。

対象児Iのソーシャルネットワーク図において特徴的な点は、非同居家族と対象児Iとの距離である。同居家族と比較すると、非同居家族は対象児Iと距離を置いて描かれているが、その中でも対象児Iとの距離に差が見られる。非同居家族の中では「母方の祖母」が対象児Iの最も近くに描かれており、「母」との距離も近い。北村ら（2001）の研究によると、結婚してからも娘は母親との親密性が高く、常に何かしらのサポートを求める傾向があることが分かっており、対象児Iのソーシャルネットワーク図からも同様の傾向が見てとれる。一方で「父方の祖父」と「父方の祖母」は対象児Iから大きく距離を置いて描かれており、物理的にも心理的にも距離感が遠く、対象児Iとのかかわりが薄い推測される。

#### 4. まとめと課題

本研究は、祝着の調達方法についてアンケートのみでなく、ソーシャルネットワーク図を用いることで、子どもと周囲の大人のかかわりの深さ（心理的距離）について可視化することを目的とした。フィールドの関係上、ソーシャルネットワーク図を描くのが、母親に偏ってしまったため、父親や、祖父母等の子どもを囲む多数の人々について、幅広く調査を行う必要がある。また、少なからず作図をする人の主観が入ってしまうことについて、いかに客観性をもたせていくかが課題である。

本文では触れていないが、研究Iの結果から、七五三参拝日別の人数は、本来の七五三

の日である11月15日よりもその前後の土日のほうが圧倒的に参拝者の数が多いことが分かった。これは、核家族化や共働き世帯が増加する中で、両親が平日に仕事の休みを取れないことから、平日の15日ではなくその前後の土日に参拝者が流れたことが予想される。

石井（1994）の調査からも、1990年代前半ごろから、七五三祝いを15日に近い土日に行う傾向があることが分かっており、さらには神社が混雑しないと予想される10月や11月前半にとりおこなう家庭も増加し、時代の流れと共に、参拝日時は拡散・多様化していることがうかがわれた。

### 謝辞

本調査にご協力いただいた、ご家族の皆様にご心より感謝申し上げます。

### 文献

- 阿部順子・宮津寿美香・伊藤素子・高井一川上清子（2011）質的研究におけるデータの信頼性を吟味する1つの試み. 日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科, 16, 109-118
- 石井研士（1994）七五三に見る通過儀礼の変容. 明治聖徳記念学会紀要 63-75
- 北村琴美・無藤隆（2001）成人の娘の心理的適応と母娘関係：娘の結婚・出産というライフイベントに着目して. 発達心理学研究, 12, 46-57
- Lweis, M.&Feiring,C.:The Child's Social Network:Social Object, Social Functions,and Their Relationship, In Lewis,M.&Rosenblum, L.A.(Ed.),The Child and Its Family, pp.9-27, New York:Plenum Press (1979)
- 松山谷子・布施谷節子（1995）七五三の祝着にみた衣生活行動. 大妻女子大学紀要 家政系, 31, 31-39
- 内田直子（2013）七五三行事にみる家族衣風景の変遷・2:—1990年-2012年について—. 一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集, 65(0), 259